



日高ロータリークラブ WEEKLY

2021-2022 R.Iテーマ
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

THE ROTARY CLUB OF HIDAKA

例会日 毎週火曜日 時間 第1・3週 18:00~19:00 第2・4週 12:30~13:30
 例会場 日高市商工会 住所 〒350-1206 日高市南平沢1083 日高市商工会館内
 事務所 同上 TEL.FAX 042 (985) 3355
 会長 町田秀雄 幹事 白井 威 会報委員長 古本良子

第1788回例会 2021年11月9日(火)

2021年12月7日発行 第1617号

会長報告 町田秀雄会長

10月24日(日)、1920~70年代に生産された国内外の名車が埼玉県内の道を巡る『ポリオ根絶チャリティークラシックカーラリー』が行われました。大宮・川越ロータリークラブなどで行く同ラリー実行委員会の主催で、国内外の41台が県内を駆け廻ったそうです(武蔵一宮氷川神社【さいたま市大宮区】を出発した41台が、川越市の一番街や秩父市の番場通りなどを經由し、約二百キロを走破してさいたま市大宮区にゴール)。



私自身も車関係の仕事をしているので(車が大好き)この模様をYouTubeで拝見させて頂きました。「参加したいなあ」などと考えておりましたが…実際に走っている車種を見て、ベクトルの違いを感じてしまいました。1923年製フォードモデルT(米国)や、58年製オースティン・ヒーレー(英国)、71年製フェラーリ・ディーノ(イタリア)など…往年の名車ばかりでした。来年以降も開催される予定との事ですので、機会があったら挑戦してみようと思っています。



幹事報告 白井 威幹事

地区事務所より

・第2回会員増強セミナー開催案内

12月2日(日) 13:00~16:00 於:紫雲閣

卓話 インニシェーションスピーチ 上野宗久会員

~自己紹介~

生まれは大阪府です。大学の医学部を卒業と同時に、泌尿器科に入局致しました。以後、東京周辺の基幹病蹟を積んできました。1986年から3年間、米国ニューオリンズで腎臓ホルモンの研究を重ね、帰国後は尿路悪性腫瘍の診療と研究に精を出しておりました。1994年に御縁があり、毛山町にある埼玉医科大学の腎臓病センターで勤務を始め、以後19年間埼玉医大で外来と手術に明け暮れておりました。



2007年には日高市の国際医療センター泌尿器腫瘍科の教授職と、前立腺センター長職を拝命し、泌尿器のがん治療に専念。そして2015年、自身が理想とする地域医療を求めて開業することを決意しました。現在は、武蔵高萩駅北口前に『さいたま泌尿器・ひふ科クリニック』院長を務めております。

出席報告	11月9日	会員数	出席数	出席免除	欠席数	出席率	10/26修正率
	夜間	18	15	2	3	75%	62.5%

ニコニコボックス報告 会員 15名 金額 15,000円 累計金額 132,000円

～前立腺がんはどんな病気？～

前立腺は、膀胱のすぐ下にあり、尿道を取り囲んでいる男性特有の臓器です。夏みかんのような層構造をしていて、尿道のまわりの内腺（みかんの実にあたる部分）と、被膜付近の外腺（みかんの皮にあたる部分）に分けられます。がんは、このみかんの皮部分にあたる『外腺』というところにできやすいがんです。初期では尿道や膀胱を圧迫しないため、ほとんど症状があらわれません。

「尿の出が悪いので、癌ではないか…診察して下さい」とご相談に来られる患者さんもいらっしゃいます。しかし、自身で前立腺がんを発見する事はほぼ無理なのです。それほど『無症状』な病気なのです。ただし移行域(内腺部)に発生し、早期より症状を呈する『前立腺肥大症』という病気が、癌にしばしば合併して発生します。その場合は、前立腺が尿道を圧迫するため、頻尿(尿の回数が多い、特に夜間)尿が出にくい等々の症状も見られます。更に特徴として、リンパ節と骨(特に脊柱と骨盤骨)に転移しやすいがんです。リンパ節に転移すると下肢のむくみ、骨に転移すると痛みや下半身の麻痺が生じることがあります。ここで初めて痛みが生じる訳で、前立腺がん自体は『無症状』なのです。無症状であるが故、以前は早期に発見することが難しい病気でしたが、現在は検査態勢の進歩で簡単に発見できるようになりました。

～年々増加している前立腺がん～

前立腺がんは年々増加していて、2020年では日本人男性がかかるがんでの罹患率(かかっている方の割合)は、胃がんを抜いて第2位となりました(1位肺がん、2位前立腺がん、3位胃がん)。一方、前立腺がんは癌での死亡率は高くはなく、罹患率の割にはあまり死亡しないということが言えるのです。つまり、前立腺がんは罹っても死に必ずしも直結するわけではないということがいえるのです。保険会社泣かせの病ですね…。増えている理由としては、日本人の高齢化、食生活の欧米化があげられます。動物性脂肪を多く摂ることが、前立腺がんの発症につながるリスクがあるのではないかとされています。国別で言うと、特にアメリカ(黒人)では、現在前立腺がんが男性の癌の中で罹患率1位、死亡率2位となっています。食の欧米化によってかかる病気も欧米化しているということが言えるのではないのでしょうか。

～前立腺がんを早期に見つけるには？～

早期に見つける方法は、通常の血液検査で行えるPSA検査です。PSA値が基準値よりも高い場合は、泌尿器科専門医のいる病院で精密検査を受けて下さい。

※PSAというのは、前立腺特異抗原といって前立腺の中の特有な物質です。癌細胞は正常の細胞を食い破って血液中に漏れ出していきます。そのためPSA値が高くなってしまいます。血液中のPSA濃度が4ng/ml以上であると前立腺がんを疑うこととなります。前立腺がんかどうかは…

精密検査ではPSAの再検査や「直腸診(医師が肛門から指を挿入し直腸の壁越しに前立腺を触診する検査)」により、前立腺の肥大やしこりがなければ調べます。また『超音波検査』などでがんがないかを調べる場合もあります。このような検査を行った後、がんが疑われる場合は確定診断として『前立腺針生検(組織検査)』を行い、前立腺の組織を詳しく調べます。

前立腺がんとわかったら…

前立腺針生検で前立腺がんが発見された場合には、がんの進行度を見るためにCTやMRI検査を行います。また前立腺がんは骨に転移しやすいことから、「骨シンチグラフィ」で骨に転移がないかを調べることもあります。

～手術支援ロボット(ダヴィンチ)による低侵襲手術～

以前は外科医がお腹を大きく切開する開腹手術が主流でしたが、腹腔鏡手術の普及により、術後の回復も良好になり身体への負担もより軽くできるようになりました。しかしながら、腹腔鏡手術では体内の深い場所での鉗子などの操作が難しく、術者による技量の差がどうしても出てしまいます。こうした腹腔鏡の課題を克服するのが、ロボットによる低侵襲手術だと期待されているのです。日本ではまだまだ未導入の病院が多いのですが、海外では積極的に導入されており、アメリカでは前立腺全摘手術の約8割が手術用ロボットを使ったロボット手術になっています。術者が清潔厳守の手術から離れて、座って良好な視野での直感的操作を行うことによる肉体的負担や精神的疲労度が軽減されます。患者さんへの負担軽減の観点からしても、今後ますますの普及が望まれるでしょう。

